昭和31年1月10日（毎月10日）発行　伊万里市広報　（昭和29年8月19日 第三種郵便物認可）　第21号（一）

伊万里広報

一部五円

発行所
伊万里市役所
編集兼発行人
山口正次
伊万里市大坪町甲2869
電話710番

印刷所
松浦印刷　電522番

年頭の辭

市長　橋口四郎

市民の皆さん、明けましてお芽出とうございます。幸福は凡庸の中にありと申しますが、何は無くとも和やかな初日を健康で迎えるにました幸福はないと存じます。

凡人の悲しさ、新年が來て驚きを繰り返すのですが、早いもの終戰から十年経ってしまいました。又私達の伊万里市が誕生致しましてからも三度目のお正月です。国家は所謂終戰処理の十年を経て、次の十年のスタートに立つたわけで、平和の国際場裡に於て政治と産業とがバランスのとれた眞の発展に推進すべきだと考えます。我が伊万里市に於きましても、市民の方の理解ある御協力によりまして、其の積極的面では必ずしも御期待を満たし得る迄には至らなかつたことを頗る殘念に存じますが、合併後の過渡期的な処理を一応片付けることに成功し、躍進の爲に態勢を整えるべき段階に至つてゐるのであります即ち経済事情の推移、政治情勢の現況からしても、財政の建全化を中心として、所謂地味な実力の調整と蓄積に努力しなければならないと信じます。而して斯る目標の達成には、市政の色々な面で此の上にも市民の方の深い理解による耐乏市政の御協力をお願いせなければならないと存じます。

幸いにして合併第一儀として掲げました市民和協の精神は遺憾なく発揮して戴きまして、三百に達する国内新市中の白眉として今日の成果を擧げ得てゐるのも、これ全く市民諸賢の深き御理解の致す所に外ならぬと感謝致し居る次第であります。

併し乍ら私は、合併の際の協定事項の精神の具現や、遅れることを許されない教育行政や産業行政の推進に付いては耐乏市政の中にも重点的な考慮を拂い、田園都市としての建設を意圖した合併目的の実現に一歩を進め、以て総合開発えの基盤を培うと共に、市民諸賢の附託に答うべきだと信ずるものであります。以上甚だ簡単粗辞を連ねましたが所懐の一端を市民の方えの理解の致す所に外ならぬと致します。

年頭にあたつて

市議会議長　武藤庄三郎

坤輿一轉して萬象こゝに新たに昭和三十一年の輝かしき新春を迎えましたことは御同慶に堪えないところであります。

年頭に当りまして伊万里市政施行後を回顧してみたいと思います。朝鮮動乱が斉らした経済界の好況は、動乱に終止符が打たれると共に急激に不況の波が押し寄せてきて、世人を慌てさせたのでありますがその影響は中央といわず地方といわず経済界にも又政治界にも厳しく波及してきたのであります。特に地方財政には相当大きな打撃を與えたのでありまして、恰度市制施行頃から深刻になり、市民諸賢の合併に対する御期待に渉からず支障を來しましたのは覆い難い事実であります。

爲めに市議会と致しましては市発足当時の一八〇人議員から昨年四月改選された三六人の現議員を通じて、市財政打開と市建設計画即ち田園都市形成と伊万里湾臨海工業地帶造成との二大目標と共に市民の福利施設の充実を期して懸命の努力を払つて参つたのでありますが、事志通りに参らず格別な成績を挙げ得なかつたことは時の勢とは言い乍ら私共の微力を痛感する次第であります。今や経済界も稍々好轉の兆あるとき、伊万里市のよりよき発展を期する上に於て凡ゆる角度からみて施政の進路をどう向けるか、舵をどうとるか、勿論これは市長が舵手となり定めらるゝと思いますが市議会も八万三千市民諸賢の輿論を忖度し、議会は市民の意志決定機関としての使命達成に一意專念しまして御期待に應えたいと念ずる次第であります。市民諸賢の御承知のように市制施行に基く合併時の懸案として教育施設の整備、厚生関係、災害復旧、道路の整備その他各種各様の問題が山積しているわけでありますが、これが速かなる解決を図るは元より、伊万里湾の活用による工業地帶の造成と更に進んで大企業の誘致に力を致し、以て大都市としての伊万里をつくりあげる素地としたいと考えるのであります。願はくば市民諸賢に於かれては旧に培し市政に関心をお寄せ下さると共に私共の念願達成に最大の御協力と御聲援を賜はらんことをお願い致す次第であります。

終りに臨みまして市民諸賢の御健康と御多幸をお祈り申上げます。

工業統計調査実施さる

通商産業省では例年通り十二月三十一日現在で工業統計調査を実施することになりました。この調査は全国の製造業を主業とする現場の事業所について調査し、製造工業の面からわが国の経済活動の実態を明らかにする最も重要な統計を作るために行われるものであります。調査は甲調査、乙調査に分れ共に統計調査員の配布する工業調査票により行うことになつて居り、義務者は調査票に所定の事項を記入し記名捺印の上、二部を提出することになっています。尚本調の秘密に属する事項は法によつて保護される反面、事業主は申告の義務を負うことになっています。

お知らせ

相生マート代表大橋幸十氏より向陽園に三千円
浜町代表山口義一氏より名瀬町見舞金として三千円、東黒川小学校生徒より日赤募金に二二五円、
波多川小学校五年生より学用品他寄贈

三十年　議會の歩み

企業誘致に全力集中　水害對策に非常措置

合併二年目を迎え三月市議改選を前に、議会は嵐の前の静けさ？……一月はとり上げた事項もなく過ぎたが二月に入り、新年度の予算編成を控え各委員会とも活潑に動き始め、二月二十四日一八〇名の議員を以て三十年初の議会を開会したについては新年度の骨格予算二億八千万余を可決し、続いて二十七日新市初の市議選挙が行われ、三十六名の精鋭が選出された。四月五日新議員による初議会を開き、正副議長、各常任委員長及び各委員を決定し、茲に愈々新市に相應しい議会態勢を整え、新しい抱負と期待の下に晴れの門出をした。

四月十四日季節外れの豪雨が襲来し、十八日早速これが対策協議会を開催、市当局と共に善處した。五月、議員は先ず管内の認識からと市内の行政視察を行つた。六月は総額五億四千万に上る肉付予算を可決したが、艱々と迫る地方財政の窮乏化と、一方これに反比例して山積する諸問題と取り組み議会二回、委員会十五回と活氣を呈した。

八月、伊万里寮の問題が漗生し、特別委員会で九月まで引続き調査審議した。十月は港湾開発に伴う企業誘致問題が大きく浮び上り、相次いで企業誘致対策委員会を開催、総力を結集して之に当つた。十一月は臨時議会を開き追加予算條例を審議可決し、十二月企業誘致の件で更に全員協議会を開催、二十四日本年最終の定例議会を開き、かくて多難の一年を終えた。因に本年中の議会開会は十一回延二十一日に亘り、総計一五〇議案を可決、尚委員会開会は九十四回に及んでいる。

昭和三十一年度新入兒童の身体検査について

市教育委員会

本年度の新入兒童に対し二月から三月上旬にかけて各校区毎に身体検査を実施致します。検査の通知書は一月下旬から二月上旬にかけて配布しますので、住民登録の手続き洩れ等のため通知書が來なかつた人は学校に屆出て下さい、又身体検査の当日差支えのため、検査を受けられない人も必ず学校に屆出て下さるようお願い致します。

尚外国人で学令兒童のいる人は二月上旬までに、教育委員会又は学校に屆出て下さい。

保育所の入所申請について

市福祉事務所

左記に依り入所希望者の受付を致します。詳細は市福祉事務所、各地区兒童委員又は保育園にお問合せ下さい。

一、申請期日　一月十日より全末日まで
二、受付場所　各地区保育園
三、提出書類　保育所入所申請書（保育園に用意してあります）

昭和三十年の回顧

◆一　月　一月一日より国民健康保険の全市實施か實現、尚運輸省主催の中央港湾計画会議に於て伊万里湾開発計画が承認され、輝かしい第一歩を踏み出した。

◆二　月　今年は選挙の当り年、二十七日先ずトップを切つて国会議員の選挙が行われている。従つて選挙に伴う公明選挙運動が各分野に於て展開された。

◆三　月　三日本年度第一回臨時市議会が召集され、二億七千九百余万円に上る骨格予算を承認、二十七日は新市初の市議会議員、市教育委員会委員の選挙を実施、新鋭三十六名を選出した。

◆四　月　新議員による初市議会が五日開催され、二十三日は知事と縣議会議員の選挙を實施、絶対多数を以つて鍋島知事を再選した。尚十四、五両日に亘る季節外れの豪雨は死者一、床下浸水六〇〇戸、被害総額一億円という大きな被害を與えた。

◆五　月　「子供の日」を中心に兒童福祉並に青少年保護育成月間が展開され各種の行事が實施された。又十一日は本年度赤ちゃん大会が保健所で開かれ、伊万里小学校で併し八日未明東新町に発生した火災は死者五名という犠牲者を出し暗影を投げた。

◆六　月　十一日伊万里小学校にて市百余万円に上る骨格予算を承認、二十七日は新市初の市議会議員、市教育委員会委員の選挙を実施、新鋭三十六名を選出した。

◆七　月　新議員による初市議会が五日開催され、二十三日は知事と縣議会議員の選挙を實施、絶対多数を以つて鍋島知事を再選した。尚十四、五両日に亘る季節外れの豪雨は死者一、床下浸水六〇〇戸、被害総額一億円といい大きな被害を與えた。

◆八　月　七月下旬より八月上旬にかけて青年団指導者講習会が二十には縣告示で伊万里湾各地区毎に開催され、十日七日先ずトップを切つて国会議員の選挙が行われている。尚二十一日からは第八回縣体が開かれ、全日大阪、新大阪ホテルに於て工場誘致の爲め伊万里湾説明会が開かれている。

◆九　月　十五日は「としよりの日」市内最高令者は男では黒川町の有山作太郎さん、女では二里町の小隈ミツさんである。尚同日、鍋島知事出席の下に商工会議所主催の商工経済懇談会が開かれた第五臨時議会では藤山愛一郎氏を市顧問に推薦、二十七日は黒川中学校で第二回移動市役所を開設した。

◆十　月　十三日菓子の神様中島神社の縣分社が建立され、伊万里名所が一つ増えた。二十八日には大坪小学校で一九五五年教育映画祭が擧行され又二十四日から三日間、市役所職員組合が初の美術展を開催している。

◆十二月　十二、十三日の両日大坪小学校で社会教育研究大会が開催され、市内役職員を網羅し新市前進の素地を固めた。又各町では相次で農民祭を擧行し豊年満作を祝つた。尚縣並に市合同にて全力を傾注、誘致運動中であつた山代町久原設置予定、協和醗酵アルコール工場は各種の立地條件には惠まれたが良質且低水温豊富な工業用水を必要とし、之が適格を欠き、一應中止される伊万里湾の好條件を熟知、アルコール工場新設は勿論他種工場設置につき引続き研究の意向あり、その將來が期待される。

謹んで新年の御祝詞を申上ます

昭和三十一年元旦

伊万里市役所
市長　橋口四郎
助役　山口正次
収入役　大川内善次
職員　一同

伊万里市議会
議長　武藤庄三郎
議員　一同

伊万里市教育委員会
委員長　内山竹四
教育長　川崎文次
職員　一同

◎新しい年に新しい生活設計を……新生活運動推進

伊万里市 社会教育研究大会

盛會裡に終了

謙虚な気持ちで話し合い 自主的意欲の喚起が先決

二日間に亘る

伊万里市教育委員会主催伊万里市社会教育研究大会は、年の瀬も押迫った十二月十二、十三の二日間大坪小学校に於て開催、公民館、青少年団、婦人会、PTA、学校関係の役職員その他社会教育に重要な役割を持つ約三百五十名が集り、尚縣並に市当局も列席、主催者側市教育委員会は全員を動員、時勢に鑑み社会教育の根本的解決と再検討を行い、以て新市の進むべき方途につき凡ゆる角度から終始、眞摯な研究と討議を行い盛会にして且有意義裡に二日間の幕を閉ぢた。

敗戰の痛手も未ださめぬ昭和二十四年、子供の不良化防止と尚よりよき成長を願つて開設した、各自米一合を持寄つて会食した時の子供達の喜びは未だに忘れ得ない感慨である。

すべて「父兄と共に」をモットーに、尚、班の集会に重点を置き、会場は輪番制とした。目覺しい成績とはいえない迄も、自律自戒の域に到達出來たことを何よりの收穫と喜んでいる。

組織編成、指導者の選定、両親教育、それに学校教育との関連性、以上の四点が今後の課題と思う。

青年團活動について

波多津町　藤森安磨

他力依存の傾向が濃厚なように思われる。自らのことは自らの手でという所謂自主的意欲の喚起が肝心と思う分館長の下に專任の主事を置いている。事務は各分科会に分ち努力目標を先ず産業面に置き、逐次他に及ぼすように努めている。

婦人会活動について

松浦町　古川リエ

昭和十九年十月、母親学級として誕生したが、戰爭酣の頃で竹槍の操法まで稽古したこともある。戰後は新態勢に即應し民主的立場から、母親自身とし、或は又子供教育に対する教養など努めてきたが父親の無理解が最大の難関であつたと思う、最も効果のあつたと思うのは討議会であつた。

「家庭平和の中心は母親から」をモットーに精進を續けている。

PTA活動について

大川町　田中スミエ

子供の不平は成長の証據である。子供の成長に即應して理解を持つこと、これが親としての責任であり、PTAの任務も亦茲にあると思う。視野を廣く新しくそして実行第一にという、以上三点を重点に考えたい。子供に要求する前に先ず親が実行することが大切と思う。

分館活動について

東山代町　石丸巽

昭和二十二年に「親和」をモットーとして発足した主なる目的を時間の嚴守、視聴覺教育、産業振興、貯蓄奨励の四点に置いて努力しているが施設のないのが遺憾である。

身についた研究と實践

本大会の要旨

一、本大会開催の目的

伊万里市の社会教育進展に重要な役割を持つ役職員が一堂に会し、旧い町村意識を排除し新市の意識の下に、伊万里市の実態に即應する社会教育の当面する緊急諸問題を研究討議し、今後の飛躍的発展を圖らんとするものである

二、本大会の基本的なもの

①時間励行が第一の要諦

②活潑なる発言が最重点

③二日間の出席が原則

④他人の会でなく自分のものとしての会

各方面の活動—發表とデス

午後は五班に分れ分科会 大会初日の日程

第一日は先ず主催者として川崎教育長より、民主政治施行茲に十年、今やわが国は凡ゆる分野に於て検討改廃の時期にあると思われる。即ち凡ての面に検討を加え、日本的なものにする時が到來している。

各々その地域並に職域に於て重要な役割にある会員各位の充分な研究と討議が願い度いと開会の挨拶あり、次いで橋口市長より、社会教育の重要性と出席会員の自覺奮起を促し以て新市の発展に対し協力方を要請する挨拶あり、更に縣係官より。

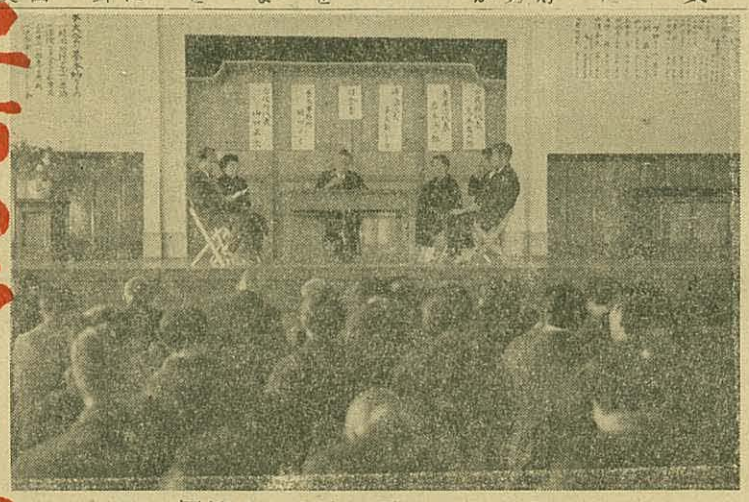
身近かな問題から一つ〳〵片づけてゆく具体的な活きた活動こそ新しい社会教育のあり方と思う。赤字解消の問題も新生活運動の推進も之を置ては成り立たないと強調、プログラムの説明の後公民館の歌を斉唱、十時二十分より発表とデスに入つた。

一、發表とデス（討議）

子供クラブ活動について

山代町　山口兵治

「伊万里市の青年団」をおさがしください



デスネルパの目日二会大会は眞写

①子供クラブの開設を好まぬ父兄もあると聞くが、PTAの立場から所見を承りたい。

②子供クラブの班別指導について一貫せる指導指針ありや。

③子供クラブの経費の捻出について、又その主な支出面を承りたい。

④分館活動の主なる任務は先ず父親教育就中その政治教育と思うが如何。

⑤青年学級の現状について承り度い。

⑥分館の「歌の会」について、指導者並に歌の選定について承り度し。

⑦母親学級に対する父親の協力策について。

⑧各階層の協力態勢こそ社会教育推進の根本策と思うが如何。

二、全体討議

（会員よりの主なる質問を拾ってみると）

①子供クラブの開設を好まぬ父兄もあると聞くが、PTAの立場から所見を承りたい。

②子供クラブの班別指導について一貫せる指導指針ありや。

③子供クラブの経費の捻出について、又その主な支出面を承りたい。

④分館活動の主なる任務は先ず父親教育就中その政治教育と思うが如何。

⑤青年学級の現状について承り度い。

⑥分館の「歌の会」について、指導者並に歌の選定について承り度し。

⑦母親学級に対する父親の協力策について。

⑧各階層の協力態勢こそ社会教育推進の根本策と思うが如何。

三、ロールプレイング（劇化討議）

社会教育運動の壁はどこにあるか

司会（教委）草崎トキエ

登場人物は公民館長夫妻に市会議員夫妻とその長男都合五名で、社会教育に対する現段階が如実に演じられた。期するところ母親の無智と封建的な父親の頑固さが壁だということになつている。

四、分科會

①第一分科会

午前中は「新生活運動」について討議

午後は分科会の発表　二日目日程

第二日は午前九時三十分「新生活の村」という映画觀賞に始り、十時よりパネルデス（陪席討議）……「伊万里市における新生活運動について」討議の後、中食をとりつゝ見るレクレーション……婦人会員の手踊りに一息入れ、午後は昨十二日の各分科会の発表あり、エバレーション（評價）の後、十五時二十分大会の幕を閉ぢた。

一、パネルデス

新生活運動について

司会（伊公）松尾　加助

市役所代表　山口　正次

公民館〃　高木英太郎

普及事務所〃　鶴田　タイ

婦人会〃　多久島ミヨ

青年団〃　中里　招功

各代表の意見の要旨を発言順に拾ってみると、

①人間性の自覺による生活と思う。新市の性格から見ても当然生れねばならぬ生活構想と考える（山口）

②中央集權的でなく花火線香式でない然も自主的なものでなければいけない尚心の繋りたらしめたい（高木）

③末端の心の結びつきが大切と思う。生活上の凡てのことについて忌憚なく打開けて語り合い、万事協力して新しい生活を見出してゆくことが肝心と思う。（多久島）

④婦人層の低位を痛感するお互いに話し合うことによつて、採長補短、新生活への道を辿つてゆきたい。（多久島）

⑤時代の相違でお互いの考えに喰違いのあるのは止むを得ない。摩擦を去けるため家族会議的なものを持ちたい。（中里）

⑥民主的で然も下から盛上る力、つまり実生活を見つめて、そこから盛上る意欲がなければ絶対出來ないと思う、從つて決してあせつてはいけない。時期を待つ必要があると考える。（鶴田）

⑦地についた運動でなければ龍頭蛇尾に終る。運動即生活でなければならない。青年団に入る者が少いのもそのためである。視聴覺教育で機会ある毎に新生活に対する視野を高めることが大切と思う（中里）

⑧「市廣報」の頁を増やして社会教育の記事を多くとり入れて欲しい（高木）

⑨農村では「百姓はこんなもの」という妙な諦めが強く新しい方面に対する意欲が見られない（鶴田）

⑩婦人や青年の社会教育は盛んだが肝腎な父親の社会教育が充分でない氣がする。（山口）

⑪新生活運動には先ず父親自身が率先してぶち当つて欲しい。これこそ婦人層の何よりの悲願である（多久島）

二、全体討議（一般よりの質疑）

①経済生活の改善こそ先決である。

②婦人は余り身を保ち過ぎる。強く正しくを望む。

③市当局の社会教育に対する熱意を切望する。

④因習の打破が最も大切だ

⑤本運動は凡て民主化によらない限り遂行は絶対不可能である。

三、分科會の發表

①第一分科会

町村合併後における公民館の振興策について

山代町　山本勇一

臨時職員では任務が重過ぎるし財政的裏付も少く独立の公民館さえないところが殆んどである。人間造りだから今少し認識と協力が欲しい、分館活動の充実が先決だが分館長は区長兼務は香しくない。止むを得ない時は專任の主事を置いたがよいと考える。又凡ての行事は横の連絡を密にして協調することが大切である。要は人と組織と一般の認識問題に帰結すると言えよう

②第二分科会

公民館を中心とする綜合社会教育計画について

松浦町　江口高治

各種の社会教育団体が相互に連絡し課題を見出し、これを分析、検討することが大切である。生活改善、公民館の機構、予算と行事、精神教育、以上四点を採り上げてみた。生活改善は各自の生活水準を高めることが大切であり、分館長の分離問題は人と所の関係で画一性は困難と思う、行事は各団体が持寄つて調整し、簡素化する必要がある。責任観念を養成し勤労意欲を喚起する精神教育の必要性は論を俟たない。

③第三分科会

伊万里市における青少年教育について

大川町　田代政敏

未加入の青年は何故存在するか、青年団のあり方について啓蒙する必要がある。役員は指導的立場になくてはならないし、青年団と公民館の関係を密接にする必要がある。財政上の裏付問題も緊要だし、指揮者及び講師の問題にも再考を要する。尚指導者の研修会を市で開催して欲しい。

④第四分科会

伊万里市における婦人教育について、

大川町　草崎トキエ

婦人教育は公民館、教育委員会、婦人会と三者の教育によるわけだが家庭並に社会における封建性と感情及び経済面から種々困難性がある。婦人会は人間性を帶びて活動する奉仕団体であると同時に、会員各自の内容を含めた活動でなければならない。信頼し得る熱と意氣と教養のある指導者が必要だし、男性と共に協力する婦人会でありたい。

⑤第五分科会

伊万里市における産業教育について

松浦町　山口與志雄

伊万里市の産業計画を市民に認識させることが先決である。充分な予算の必要は元よりであるが、各地域の産業態勢を整え、適地主義でなければならない。産業クラブ、綜合四日クラブ、分科会等産業教育の振興が肝腎であり、農民魂を喚起する必要がある。

四、評價（エバレーション）

（一）出席会員よりの批判

①旧伊万里町地区では分館長に対する連絡に手落ちがあつた。

②年末押迫つての開催は如何かと思う。

③社会教育を重要視せよ

④事前準備は結構である。

⑤第二分科会はテーマの関係から不必要と思う。

⑥指名参加は人と職業から適材適所に願い度い。

⑦有意義な会は鉄晋して敷衍願い度い。

（二）縣係官の批判

要は盛上る力が第一要素である。市行政との繋りを密接にすると共に、責任者相互の連繋をとることが必要である。当事者は世論喚起に努め、民衆はその大呼に応えねばならない。

一月十五日は成人の日

お知らせ

西肥バス伊万里営業所長馬場実氏より故泰子嬢の香典返しとして市福祉、法外援護資金に一万円也を御寄附戴きました。

ラジオを通じ……伊万里市を全國に紹介

二十一日午後四時十五分から三十分間NHKの試み

NHKでは「日本の町」のテーマで終戰後全国に誕生した新市の紹介を行つていますが、縣下では多久市に次いで今回伊万里市が選ばれ、來る二十一日（土）午後四時十五分から三十分間、全国放送をされることになりました。

万障差繰り聽取方をお願い致します。

◎あなたの貯金があなたを守る……只今第二次郵便貯金増強運動中